平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	5	ー	56

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	社会福祉施設等解体事業					
評価者	担当課名	保健福祉課	担当係名	社会福祉係		
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	山 崎 佳 之		氏名	渡 部 憲 一
事業の概要	所管施設の適正管理を図るべく、老朽化して解体撤去が必要な施設の解体工事を実施し、町有地の有効活用を模索する。			全体計画 /単年度のみ（平成 23 年度～ 23 年度）		
				事業費	国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	14,000 千円
					事業費計	14,000 千円
実施方法	■ 直営		民間委託		その他（　　）	
第５期総合計画（前期）	■ 登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～			
	基本施策	15	環境の保全			
	単位施策	3	景観形成・環境美化・公害防止の推進			
	事務事業の種類	■	自治事務		法定受託事務	
	その他計画・根拠等					

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	千円	千円	千円	20,555 千円	千円
	合計	千円	千円	千円	20555 千円	千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	老朽した空き施設	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	他用途で活用するには相当の改修経費が必要になる。	解体施設数		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	解体工事を実施し更地にすることで、周辺環境や危険性に考慮した。	① 解体施設数	目標年度	平成23年度
			目標値	1 施設
			実績値	2 施設
			達成度	200.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	更地となった町有地の活用方法を見出す。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
①解体工事の実施	福祉センターと沢木特別母と子の家の解体工事を実施し、更地にした。

3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	老朽した空き施設が既存していることは、危険性もあり、周辺環境にも好ましくないため、解体工事を実施し、更地とした。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	老朽した空き施設が撤去され、更地になったことで危険性がなくなった。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 □その他	入札執行し適正価格で工事を発注した。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	更地の有効活用について、検討を重ねることができる。

4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
老朽した空き施設が撤去され、所期の目標が達成された。		

今後の展開方向
（Action）

終了		
予定していた施設解体工事が完了した。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）